

令和5年度学校自己評価システムシート (県立川口青陵高等学校)

S25

目指す学校像	地域と連携して自立を支援し、「進んで学び、実践できる生徒」を育成する学校
--------	--------------------------------------

重点目標	1 授業と学習支援を充実させ、学力の向上を図るとともに、「主体的・対話的で深い学び」を促す 2 きめ細かな生徒指導と特別活動・部活動の充実により、生徒の自律心と社会性を身に付けさせる 3 多様な進路に対応するきめ細かな進路指導により、生徒の進路希望を実現させる 4 学校の情報発信と、地域・保護者との連携を積極的に推進し、社会に貢献できる生徒を育成する
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	8名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	8名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標				年 度 評 価 (2月1日 現在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<p>【現状】 ○授業へ取り組み態度は大変良好である。一方基礎的な学力が未定着な生徒も少なからずいる。 ○教材の共有など、教科に関する教員間の情報交換はできている。さらに、ICT機器を活用した授業等も徐々に増えてきている。</p> <p>【課題】 ○学習を苦手とする生徒に対する教材の工夫や補習の充実が必要であり、また、家庭学習や自学自習の定着を図る取り組みが必要である。 ○授業法やICT機器の活用法等の研究を目的とした互見授業の活性化が必要である。</p>	<p>○主体的学習を促す取組と生徒の学力の向上</p> <p>○授業改善の取組状況と、授業力の向上</p>	<p>①朝学習の内容を工夫 ②各教科で計画的な週末課題を提示 ③家庭学習時間の確保 ④手帳を活用した日々のスケジュール管理とすきま学習の奨励 ⑤進路希望・学力に応じた面談・補習等の実施</p> <p>①教員間授業観察週間の設置 ②授業改善に係る教科会の活用 ③タブレット等ICT活用や「未来学び」等の研究授業の充実 ④授業力向上研修会を実施 ⑤ICTに係る授業支援環境の整備</p>	<p>①朝学習の内容の工夫の状況 ②週末課題の提示状況 ③生徒アンケート「授業以外の学習時間」の取組状況 ④手帳の有効な活用状況 ⑤学習支援の取組状況</p> <p>①～⑤成績上位者・欠点保持者の数 ①～⑤学びの基礎診断テストの結果</p> <p>①教員間授業観察の実施状況 ②授業改善の教科会の実施状況 ③タブレット等の活用状況 ④授業力向上の研修会の実施状況 ⑤ICTに係る授業支援環境の整備</p>	<p>①1学年のClassi導入と毎朝のタブレット活用など、各学年で朝学習の課題を工夫 ②各教科で週末課題と小テストを実施 ③「授業以外の1時間以上の学習時間」R4 44.6%→R5 42.3% ④手帳の効果測定の結果は概ね良好。校内手帳甲子園を実施し表彰 ⑤教科担当と担任との連携が強化 ⑥成績不振生徒への補習等が充実 ①～⑤欠点保持者は昨年比約2/3に減少 ①～⑤学びの基礎診断テスト結果は横ばい</p> <p>①③教員相互の授業見学期間を設定 ②授業アンケートを実施、授業改善に活用 ③授業や課題等にICTを活用する教員が増加 ④1・2年の評価方法を10→5段階に変更 ⑤新規に評価研修会を実施 ①～⑤生徒アンケート「わかりやすい授業」R4 83%→R5 82%</p>	B	<p>・授業以外の学習時間を確保するためにも、ICTを駆使するなどして朝学習や週末課題、小テスト等を更に充実させる</p> <p>・欠点保有者数は昨年度より減少したがまだ多い。一層の組織的取組が必要である。</p>
2	<p>【現状】 ○組織的で丁寧な生徒指導・支援が行われており、生徒は規律ある学校生活を送っている。部活動の実績も安定してきている。</p> <p>【課題】 ○生徒指導について、実際の指導で偏りが出ないよう全教員が同じ意識で指導に当たることが必要である。 ○9割以上が自転車通学であり、生徒自身が命を守る交通安全指導の充実が必要である。 ○部活動や特別活動等では生徒の主体的な取組を増やすことで、より活性化させる必要がある</p>	<p>○丁寧な生徒指導・支援と交通安全指導の充実</p> <p>○部活動・特別活動の更なる活性化</p>	<p>①生徒指導・支援に係る職員研修会の実施 ②SC他専門支援員との連携 ③交通安全教室等の実施や登校指導の頻回実施 ④遅刻指導の徹底</p> <p>①部活動参加への積極的呼びかけ ②部活動委員会を活性化させる ③施設・グラウンド等の活動環境の整備 ④特別活動・学校行事の実施方法の工夫 ⑤ボランティア活動、地域との交流の活性化</p>	<p>①研修会の実施状況 ②専門支援員の活用状況と連携 ③長欠者の数、相談の状況 ④交通事故の件数 ⑤遅刻者数の状況</p> <p>①学年別の部活動の加入率 ②部活動の実績と成果 ③施設・設備の改善状況 ④特別活動の実施状況と生徒アンケート「行事に積極的に参加」の割合 ⑤ボランティア活動、地域との交流活動の実施状況</p>	<p>①外部講師の特別支援教育研修会を実施 ②SC9回(19名)、大学教員の巡回支援5回(11名)SSW3回(1名)、相談体制が充実 ③ステップアップ講習実施。県警も見学 ④毎朝の立哨指導、月1の一斉指導実施 ⑤遅刻者数が昨年度より減少 ①～④新たに定例の生徒指導部会を開</p> <p>①部活動加入率 R4 79%→R5 80% ②バドミントン部県ベスト8、卓球部県ベスト16など殆どの運動部が県大会に出場 ③部活動予算の配分方法を改訂 ④修繕箇所を洗い出し優先順位で修繕 ⑤生徒アンケート「行事に積極的に参加」R4 92.7%→R5 92.2% ⑥生徒会の校内清掃毎週実施。県警の秋の交通安全運動へ協力して新聞掲載</p>	A	<p>・多様な生徒に対しての、より一層のきめ細かい指導や支援を行っていく。 ・交通事故防止のためにもヘルメットの着用を推進する ・遅刻、整容指導等、生徒指導の一層の組織的・統一的な指導が必要である</p> <p>・部活動加入率は横ばい。加入率の増加と共に、活動参加率や活動内容の充実が必要である ・行事での生徒主体の活動を充実する ・運動部の多くが県大会に出場。さらにも一つ上を目指したい。 ・文化部は活動の学校外への発信等、活性化への工夫を行っていく</p>
3	<p>【現状】 ○2年連続で進学率が80%を超え、進学実績の向上も見られる。就職についても内定率100%を実現している。</p> <p>【課題】 ○進学では、よりハイレベルな上級学校への進学を目指す ○就職では大手企業や地元企業の内定や公務員試験の突破等を目指す</p>	<p>○生徒の第1希望の進路実現</p>	<p>①学びの基礎診断テストの有効活用 ②組織的な進路指導・補習体制を強化する ③進路支援機関や専門支援員との連携を強化 ④手帳甲子園やキャリアサポート等の活用による進路意識の向上 ⑤進路閲覧室の進路資料の充実と利便性を考えた環境整備</p>	<p>①面談・学年会等での活用状況 ②進路研修会の実施状況 ③進学補習の開講状況 ④キャリア教育に係る啓発的取組の実施状況 ①～⑤生徒・保護者アンケート「進路指導充実度」の割合 ①～⑤進路実績状況</p>	<p>①模試の受験者数は減少 ②職員進路職員研修会を2回実施 ③進学補習25講座開講、その他随時補習を実施。GTZは維持。 ④進路行事をHPに掲載し頻繁に更新 ⑤公務員月1講座、看護体験等、ガイダンス回数は目標数を達成。公務員試験に合格 ④全国手帳甲子園で最終選考にノミネート ①～⑤生徒・保護者アンケート「進路指導充実度」生徒91% 保護者90% ①～⑤進学率82%、就職内定率は100%</p>	A	<p>・進路のしおりや青陵手帳、外部講師、教育支援機関等を効果的に活用して、進路第一希望実現を図っていく。 ・有名大学や公務員試験合格者増等、一つ上を目指して、学力向上と進路指導を教科・学年と連携して組織的にやっていく</p>
4	<p>【現状】 ○秋の入試希望倍率が高いが、近年最終倍率は落ち着いてしまう傾向がある ○今年度、開校40周年を迎え、記念事業に向けPTA・後援会と連携を密に取っている。</p> <p>【課題】 ○選ばれる学校になるよう、中学生が来校する機会を増やすなどして、本校の魅力を中学校や地域に積極的に発信する必要がある。 ○40周年記念事業を通して、PTA活動や地域との交流をより活性化させる。</p>	<p>○積極的かつ効果的な広報活動の展開</p> <p>○40周年記念事業を通じた、PTA活動や地域との交流活動の活性化</p>	<p>①進学フェアへの参加と学校説明会・部活動体験の充実 ②教職員、保護者、生徒が広報マンとなって本校の魅力をPRする ③H Pの組織的な更新体制の整備と内容の充実 ④中学校や塾への情報提供</p> <p>①40周年記念事業を、PTA・後援会の協力を得ながら進める ②文化祭等の学校行事へのPTAの参画を増やす ③教育活動や環境整備に、PTA・後援会の予算を効果的に活用する ④部活動や生徒会活動等で小・中学との交流事業を実施 ⑤地域清掃活動とボランティア活動等の実施で地域との交流を増やす</p>	<p>①進学フェア及び学校説明会への中学生の来場数 ②組織的な広報活動の実施状況 ③H Pの更新状況 ①～④中学生の本校への希望状況</p> <p>①40周年記念誌を発行。マスコットキャラクター策定、記念品・物品等周年事業は円滑に遂行 ②文化祭・マラソン大会の行事にPTAが参加 ③PTA旅費規程を新規に作成。PTA・後援会会則を改訂 ④PTAと連携し駐輪場に防犯カメラ設置 ①～③保護者アンケート「入学満足度」R4 93.4%→R5 91.6% ④部活単位で小学校のマラソン補助や老人ホームでの慰問活動等の交流を実施</p>	B	<p>・ここ数年、新入生の入試倍率が以前より低下している。本校の「売り」と伸びしろを、積極的に校外へ発信する必要がある</p> <p>・生徒、保護者を通じて本校の魅力を発信する方策を検討する</p>	
						A	<p>・現在PTA活動が盛んで、種々の改革を行っている。保護者との連携を更に強化し、学校教育力の向上を図っていく</p> <p>・地域連携も復活してきている。小・中学校・地域との交流を更に推し進める</p>

学校関係者評価	実施日 令和6年2月9日
学校関係者からの意見・要望・評価等	<p>・学校の説明では今年度の1年生から一人一台タブレット端末を導入したということだが、2・3年生についても同様にICTを活用した教育活動をしていかなければならない。 ・教員相互の授業観察は良い取り組みである。1学期も実施し、年2回行うとよいのではないかな。 ・家庭学習の時間が少ないということで、課題や呼びかけ等、学習時間の確保に向けた工夫をお願いしたい。一方で、家庭学習だけでなく、部活動等、生徒が打ち込めるのも大切であると思う。 ・成績不振者は昨年度より減少したそうだが、全員進級を目指し、補習の実施や教育相談の充実等きめ細かい指導を継続してほしい。</p> <p>・根気強い生徒指導の結果、遅刻生徒の減少等、生徒たちの生活は落ち着いているように感じる。一方で、挨拶する生徒は以前より少なくなっていると感じる。地域は本校をよく見ているので、生徒や保護者が安心できるように、学校全体で共通意識をもって生徒指導に取り組んでほしい。 ・生徒たちが力を発揮できる場として、部活動に力を入れていることはとても良いと思う。県大会でも結果が出せていることは評価できる。今後も学校の特色の一つとして部活動指導に力を入れてほしい。</p> <p>・学校として進路指導に力を入れていることがよくわかった。進学率が8割を超えている現状ではあるが、就職者への指導も引き続き手厚くしてほしい。 ・青陵手帳によるスケジュール管理や進路意識の啓発等の取り組みは素晴らしい。引き続き生徒の進路保証をお願いしたい。</p> <p>・近年、入試の倍率が低くなってきているということなので、本校の魅力をPRする広報活動の工夫をするべきである。特に、中学校へのより積極的な広報活動は必須であると考えます。 ・40周年記念事業については記念誌や記念品等、良いものができたと思う。今後は次の10年に向けて、PTAや後援会、同窓会、地域と連携して、さらにいい学校になるよう取り組んでほしい。</p>